

## 納西東巴古籍訳注全集の資料的価値について

丸 山 宏

MARUYAMA Hiroshi

(COE 共同研究員)

中国の雲南省西北部、麗江を中心とする地域に居住する納西族は、東巴と称する民間の宗教者が絵文字の経典を大量に所持して、人々の多様な宗教的要請に応じる儀礼文化を創り上げてきたことで著名である。私は、東巴が伝えてきた死者儀礼の内容に注目し、過去において麗江の東巴文化研究所（2003年度から東巴文化研究院）に赴き東巴から直接に聞き取り調査を行ったことがある。

特に東巴の和開祥氏（1921年生）から、人が亡くなってから三年目の冬に行われるシーグーと称する超度死者の儀礼について、儀礼の過程を聞くことを試みた（丸山1999）。この儀礼は火葬された死者の魂を呼び、松の木で作った死者の偶像につけ、供物をささげ、さまざまな儀礼を施してから所定の山の洞窟に安置する儀礼である。死者を祖先の霊が集住する場所へと旅立たせ、祖先の一員に組み入れる目的で行われることから、納西族のアイデンティティを表現するきわめて重要な内容を持つ。研究院の習煜華氏に納西語から中国語への通訳をしていただき、超度死者の儀礼において、どのような題目そして内容の東巴経典が、儀礼のどのような場面で、いかなる順番で読まれ、使われるのかを聞いた（丸山1999）。

その後、1999年に東巴文化研究院（編訳）『納西東巴古籍訳注全集』全100巻（以下、全集と略称する）が出版され、納西族の宗教研究に利用できることになった。この出版は研究院が長期の翻訳事業を完成させた成果であり、中国の少数民族の民族宗教の典籍がこれほどの大きな規模で、民族語から現代中国語に訳され、絵文字の原文と音声表記もそろって資料化され公開されたのは大きな意義があるといえる。

この全集はとても規模の大きい資料であり、どのように有効に利用できるか、利用する前に考慮すること

で利用価値を高めることができる点があるとしたら、それはどのようなことか、本稿で資料報告として述べてみたい。

私は超度死者の経典の概要について和開祥氏から聞いたことを最大限に生かしつつ、全集を見られるようになった段階で、まずは聞き書きと全集の内容を比較対照することを思い立った。それをする前提として、全集（東巴文化研究所編訳；第70巻163-182 183-200 201-212）にある『超度死者・規程』三種を和訳した（丸山2002）。当然のことながら、全集55巻から70巻までに収められる超度死者の経典の排列に注目することになった。おそらく膨大な時間を要するであろうが、個々の経典を、およその儀礼過程の順序に従って精読して、分析を加える作業を自己に課そうと計画しており、徐々に進めるためである。

現段階では全集を本格的に利用する前に、和開祥氏の経典排列、全集自体が収める『超度死者・規程』三種の経典排列について基礎的な対応関係を整理しておくことが重要であり、一見資料の列記のみのように取られるかも知れないが、あえてその整理作業の成果の一端として、和開祥氏の経典排列と全集の対応関係、および『超度死者・規程』（之一）の経典排列と全集の対応関係を提示することとしたい。なお対応の作業では（国家民委全国少数民族古籍整理研究室編2003；225-270）も利用した<sup>(2)</sup>。

以下、和開祥氏の経典題目は（丸山1999）に、『超度死者・規程』（之一）の経典題目は（丸山2002）によりつつも、いずれも今回改訂を加えた題目を和訳で示す。両者の統一は取っていない。次にそれぞれ表1と表2に分けて、すぐ後に対応する全集の経典の所収巻数と中国語訳された題目を示す。全集の方の経典題目は中国語のままとし、漢字は便宜的に日本語の漢字

によって示す。この表示法でも対応関係が把握でき、検索には支障がないと考えるからである。一つの経典に複数の経典が対応する場合は並記した。また一つの経典に別のある経典内容の一部が対応する場合は、題目の対応部分を記した。実際に経典を対応させる作業

においては納西語のローマ字表記を見て確認しているが、本稿では省略に従う。なお対応関係が見いだせないものはあけてあり、今後の検討を要すると考えている。

表1 東巴経典超度死者類における和開祥氏の経典排列と全集の対応経典

羊の毛皮で白い衣服を作るための経典	59 卷 擲制白羊毛服装
木偶の来源の経典	
木偶を作製する経典	60 卷 削造亡霊木身
木偶の部屋を建てる経典	57 卷 破土
良きものと悪きものをそれぞれの場所に置く経典	62 卷 死者跟着先祖們去登上面，拋白骨和黑灰
尊敬する歴代の先祖を迎える経典	60 卷 在朱勞大門口迎接亡霊木身和死者
飯の来歴の経典	57 卷 收種庄稼，給死者献飯
	69 卷 半夜講糧食的来源
木偶の身体の器官を組み合わせて作る経典	61 卷 尋找和復原死者的身体
死者に施薬する経典	60 卷 薬の来歴和点薬
衣服の来源の経典	57 卷 服装的出处来歴
	58 卷 尋找織紡品
	59 卷 服装及白羊毛穗子的来歴
	61 卷 網衣的来歴
飯の来歴の経典	57 卷 收種庄稼，給死者献飯
猛鬼を殺す経典	63 卷 俄佑俄都命殺猛鬼的故事
人類の来歴の経典 上中下冊	56 卷 人類遷徙的来歴 上下卷
屍体を処理する規則をさがす経典	62 卷 尋找喪葬的来歴
法杖を執る経典 上中下冊	57 卷 執法杖 上中卷
	67 卷 執法杖 後卷
羊を奉献する経典	
三十三本の法杖の来歴の経典	57 卷 三十三支法杖和服装的出处来歴
祖先に供物を奉献する経典	55 卷 献给死者猪和鶏
	55 卷 献牝牛和馬
	56 卷 殺牲献牲
	64 卷 殺牲
生の犠牲を奉献する経典	
煮た犠牲を奉献する経典	56 卷 献肉湯 上下卷
延寿の経典	66 卷 由馬鹿来尋找去失了的董魂
長寿の男性と女性を祭る経典	66 卷 超度美利董主和茨爪金姆
	66 卷 超度長寿者，超度金姆の経典類
勇敢な者を祭る経典	63 卷 超度男能者儀式 鋪設神座

賢恵な者を祭る經典	63-65 卷 超度男能者の經典類
福澤を賜わる經典	64 卷 超度女能者招魂
鶏が鳴いて身を起こす經典	64-65 卷 超度女能者の經典類
鶏が鳴いて衣服を着る經典	56 卷 遺留福澤
朝食を奉獻する經典	67 卷 鶏鳴喚死者
神路図の經典	58 卷 開神路 上卷
	58 卷 開神路 達樹的來歴
	58 卷 開神路 末卷
	64 卷 焼里陶冥房及超度夫妻
	67 卷 開神路 驅趕冷湊鬼
	67 卷 開神路 破九座黒坡
	68 卷 開神路 合集
	68 卷 開神路 金坤珂路的來歴
	68 卷 開神路 中卷
	68 卷 開神路 拆里塔冥房
	68 卷 開神路 開塔古黒柜的門
	68 卷 把死者領到有依端宝物的地方
生者と死者を分離する經典	69 卷 生離死別
狩獵の物語の經典	58 卷 拷獐皮口袋
木偶の部屋を壊す經典	60 卷 由舅父毀壞死者冥房，獻冥食，関死門
祖を祭る經典	68 卷 祭將婦祖的死者，由舅父給死者領路，獻飯，関死門
除穢してプミ族の村を壊す經典	69 卷 請來舅父破崩人的九座村庄

表2 『超度死者・規程』(之一)の經典排列と全集の対応經典

五色の布を供える經典	55 卷 釘古順
灯火を点す經典	55 卷 燃灯
天に線香を供える經典	59 卷 焼天香
農布という帽子の來歴の經典	
服装の出处と來歴の經典	57 卷 服装的出处來歴
	58 卷 尋找織紡品
	59 卷 服装及白羊毛穗子的來歴
	61 卷 網衣的來歴
白酒，黒酒，熟成酒の來歴の經典	59 卷 在那刹塢門前，講述三樣醇酒的來歴
口舌是非の鬼を退ける經典	59 卷 退送口舌是非
死者と木偶を迎える經典	63 卷 迎接亡靈木身和死者

木偶を削って作る経典	60 卷 削造亡霊木身
死者を目覚めさせる経典	60 卷 喚醒死者
鐸鬼を送り出す経典	60 卷 鐸鬼的出処来歴
九層に積んだ枝を焼いて除穢する経典	60 卷 用九種樹枝除穢, 報恩
灯火を点す経典	55 卷 燃灯
解厄の経典	60 卷 解厄, 大厄小厄の禍患没有了
天に線香を供える経典	59 卷 焼天香
地脈風水を占う経典	57 卷 破土
冥房を建てる経典	
衣服の来歴の経典	61 卷 綢衣的来歴
死者の屍体を復元する経典	61 卷 尋找和復原死者的身体
灯火を点す経典	55 卷 燃灯
犠牲を殺す経典	64 卷 殺牲
	56 卷 殺牲献牲
生の犠牲を奉献する経典	
煮た犠牲を奉献する経典	
猛鬼恩鬼を殺す経典	55 卷 殺猛鬼和恩鬼
創世記の経典	56 卷 人類遷徙的来歴 上下卷
肉のスープを奉献する経典	56 卷 献肉湯 上下卷
俄依都奴が猛鬼を殺す経典 上中下卷	63 卷 俄佑俄都命殺猛鬼的故事
冥食を奉献する経典	63 卷 献冥食
衣服の来歴の経典	58 卷 尋找織紡品
有能な人を超度する経典	63 卷 超度男能者儀式 鋪設神座
灯火を点す経典	55 卷 燃灯
吐蚩優麻を迎える経典	64 卷 迎接優麻神
天に線香を供える経典	59 卷 焼天香
優麻に九座の督支の黒い丘を破ってもらう経典	64 卷 摧毀九座督支黒坡
冷湊鬼を駆逐する経典	63 卷 驅趕冷湊鬼
有能な人の魂を招く経典	64 卷 給能者招魂
有能な人に冥馬を奉献する経典	64 卷 給能者献冥馬
有能な人の出処と来歴の経典	63 卷 能者名声的来歴
虎の出処と来歴の経典	65 卷 虎的来歴
虎の皮を分ける経典	65 卷 分虎皮
有能な女性の絹布を分ける経典	
有能な人に菓を奉献する経典	63 卷 許諾給能者用物, 献菓
有能な人の福澤を留める経典	
有能な人の威霊を降ろす経典	
優麻神を上方に送る経典	65 卷 送神
董長寿者を祭るために冷湊鬼を駆逐する経典	66 卷 驅趕冷湊鬼

董長寿者のために魂を招く經典	
董長寿者の屍体を焼く經典	66 卷 火化男尸体
金姆長寿者の屍体を焼く經典	
なくなった董長寿者の魂を赤鹿でさがす經典	66 卷 由馬鹿來尋找去失了的董魂
赤鹿の出処と來歴の經典	
福澤を留める經典	56 卷 遺留福澤
冷湊鬼を驅逐する經典	67 卷 開神路 驅趕冷湊鬼
神路を開く經典	58 卷 開神路 上卷
	58 卷 開神路 達樹的來歴
	58 卷 開神路 末卷
	64 卷 燒里陶冥房及超度夫妻
	67 卷 開神路 驅趕冷湊鬼
	67 卷 開神路 破九座黑坡
	68 卷 開神路 合集
	68 卷 開神路 金坤珂路的來歴
	68 卷 開神路 中卷
	68 卷 開神路 拆里塔冥房
	68 卷 開神路 開塔古黑柜的門
	68 卷 把死者領到有依端宝物的地方
福澤を留める經典	56 卷 遺留福澤
死者の食糧の種を播く由来の經典	57 卷 收種庄稼，給死者献飯
ノロ鹿の皮の鞆を背負う經典	58 卷 拷獐皮口袋
舅父に依頼して崩人の村寨を壊す經典	69 卷 請來舅父破崩人的九座村庄
生者と死者を離別させる經典	69 卷 生離死別
解厄の經典	60 卷 解厄
死者の木偶が先祖に帰る經典	62 卷 死者跟着先祖們去登上面
舅父が冥房と杭を壊す經典	60 卷 由舅父毀壞死者冥房，献冥食，関死門
白骨と黒灰を捨てる經典	62 卷 拋白骨和黒灰
福澤を留める經典	56 卷 遺留福澤
死の門を閉じる經典	63 卷 関死門，結尾經
夏に祖先を祭る經典	68 卷 祭將歸祖的死者，由舅父給死者領路，献飯，関死門
灯火を点す經典	55 卷 燃灯
福澤を留める經典	56 卷 遺留福澤
東巴が罪責から解脱する經典	

この作業の結果判明したことを端的に言えば、全集はある具体的な超度儀礼のプログラムに従って、經典を排列しようとしていないこと、また全集自体にも収

める儀礼のプログラムを記述する規程の經典の順序にも排列していないことがわかる。それは表1と表2の左側が儀礼プログラムの時系列順であるのに、右側の

対応する全集の經典の所収巻数が、上から下に単純に巻数の少ない方から大きい方へ、つまり 55 巻から 70 巻へと推移していず、かなりのまとまりはあっても、いわば所収巻数がランダムになっていることから分る。典型的な例は、表 1 の木偶の部屋を壊す經典が、全集では 60 巻に収められていることである。この經典とそれにとまなう儀礼内容は、超度儀礼全体の末尾に位置すると考えられる。したがって、これよりも前に多くの經典が読まれるが、それらの經典は全集では当該經典よりも後ろの巻に収められている。

こうした全集の構成上の特徴は、単純に全集を前から読むことで、現実の儀礼に接近することを不可能にしておき、この全集のみに依拠せず、個別の儀礼の実際を知悉する必要性を示している。すなわち全集の排列にとらわれず全集の中の經典を、なんらかの柔軟性と根拠とをもって排列し直す操作を要求する。これは経験豊かな東巴には容易に可能であったであろうが、研究者には必ずしも簡単なことではない。全集に結実した翻訳事業の最大の意義は、絵文字というものが、基本的には經典内容のすべてを示さず、部分のみを示して、記憶喚起の作用を担うものであったため、個別經典の内容を知らない者には読めないという点を踏まえ、經典内容をすべて記憶する東巴の協力を得て、音声表記し現代中国語訳することによって、忘却から救出することであった。この救出の目的は実際に達成されたのである。この場合に優先されたのは、個別の經典を翻訳して内容を残すことであったと思われる。大きな儀礼ごとの經典の分類も問題がない。しかし、大きな儀礼の中で許される範囲での經典排列の自由性や柔軟性、繰り返して同じ經典を何度も使う重複性、またある儀礼の中に別のややひくいレベルの儀礼が入れ子状に挿入される重層性等の現象の存在をすべて考慮に入れても、この全集では經典の排列には重きが置かれなかったように思われる。なんと言っても個々の經典内容は残され救出され、最も重要な目標は達成されたから、である。

私としては、東巴經典について、一つ一つの絵文字、個別の經典、儀礼に使用される經典群といった次元の違いを十分に踏まえた、総合的な検討を試みたいと考えている。この全集を利用することで、これまで十分

に經典題目も提示されず、儀礼過程のあらずじしか記述されなかったり、中国語の經典題目のみが提示され、翻訳も部分的にしかなされなかったところ、現在は超度死者の經典の全貌が資料化され利用可能になったことを重く受け止め十分に研究を深める契機にしたい。

東巴文化研究院は、実際に儀礼が自然に行えるような形で東巴の儀礼が継承されるようさまざまな努力をする一方で、この翻訳事業が終了した後の計画として、この自らが創出したこの全集と関連させて、次には儀礼の記述を整理出版し、かつ音声と映像のメディアによる東巴資料の体系的な作成と公開を計画中であるという<sup>(3)</sup>。今後の動向に注目して行きたい。

## 注

- (1) (Joseph F. Rock 1955:5) によるとロックが解放前に滞在していた段階で、既に超度儀礼はほぼ見られなくなっていた。彼はさまざまな種類の人ごとに用意された超度死者の儀礼について經典英訳をすれば、大部の冊数の本になるであろうと翻訳を示唆しているが、結局、超度儀礼の英訳はなされなかった。
- (2) 本書は、2004 年 5 月に神奈川大学 21 世紀 COE プログラム第 4 班の共同研究経費による麗江への出張の際に、習煜華氏から提供していただいた。その東巴經典の目録は、追加分以外は基本的には全集の目録と提要にそのまま拠っている。なおこの時の麗江滞在中には習氏から、(和即仁・姜竹儀編 1985; 徐霽 2003) によって納西語を発音していただき、録音を行った。全集の音標に習熟する基礎的音声資料を得られたと考えている。  
実際には納西語は消滅に瀕していないが、言語学的にすぐれた発音、文法、語彙の一体的な実際の習得に有効な言語教材が見当たらないのは惜しいことである。
- (3) (趙世紅 2003) によると、東巴文化研究院では老東巴の後継者が育たないことに大きな危機感を持っていることがわかる。

## 参考文献

- 趙世紅  
2003 「浅談東巴文化的保護和搶救」 趙世紅編『東巴文化研究所論文選集』pp. 4-8, 昆明: 雲南民族出版社
- Joseph F. Rock  
1955, 1972 *The Zhi ma Funeral Ceremony of the Na-khi of Southwest China* 228 pages, New York: Johnson Reprint
- 国家民委全国少数民族古籍整理研究室編  
2003 『中国少数民族古籍提要・納西族卷』北京: 中国大百科全書出版社

丸山宏

1999「納西族と彝族における超度亡霊の儀礼について」佐野賢治編『西南中国納西族・彝族の民俗文化——民俗宗教の比較研究——』pp. 388-404, 東京：勉誠出版

2002『中国雲南省ナシ（納西）族の葬送儀礼史に関する研究 平成13年度筑波大学学内プロジェクト研究成果報告書』茨城：筑波大学

東巴文化研究所編訳

1999『納西東巴古籍訳注全集』全100巻 昆明：雲南人民出版社

和即仁・姜竹儀編

1985『納西語簡志』北京：民族出版社

徐霽編

2003『游麗江学納西語』昆明：雲南民族出版社